

2 雄花

雄花には、中央に鮮やかな紅色に白色をちりばめた雄しべが球状に集まっており **図5**、とても美しい。ちりばめられた白い部分は葯(半葯)であるが、その間に見える紅色の部分は何なのだろうか。じつは葯隔というものである。雄しべは普通、葯と花糸からできており、葯は雄しべの中で花粉を生成し収納する部分で、普通2室からなる半葯2個と、半葯をつなぐ葯隔と呼ばれる組織からなる **図7・8**。葯隔は多くの花では狭いが、サネカズラでは横に広がり、その両端に葯(半葯)が付いている構造である。雄しべを縦断した **図7**を見ると半葯をつなぐ葯隔の組織が広い面積を占めていることがよく分かるであろう。



図5 雄しべは球状に集まっている

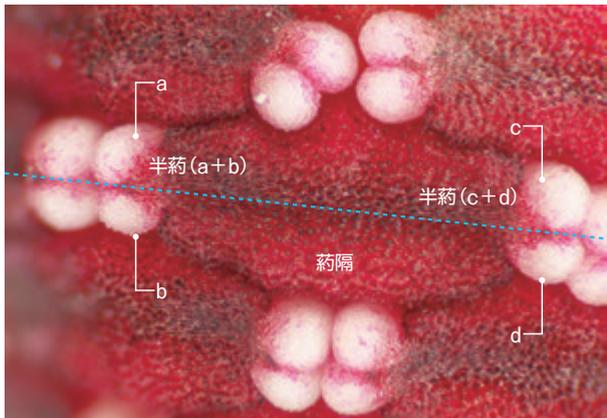


図6 半葯(a+b)、半葯(c+d)、葯隔で1個の雄しべ。
青破線で切断すると図7になる

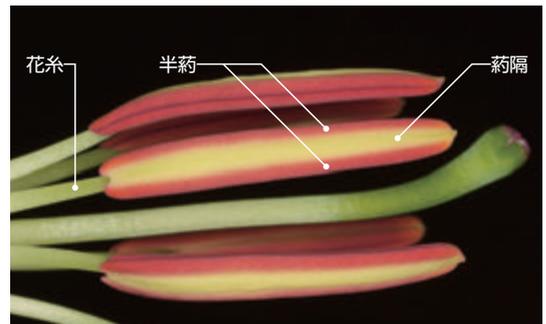


図8 栽培ユリの雄しべ

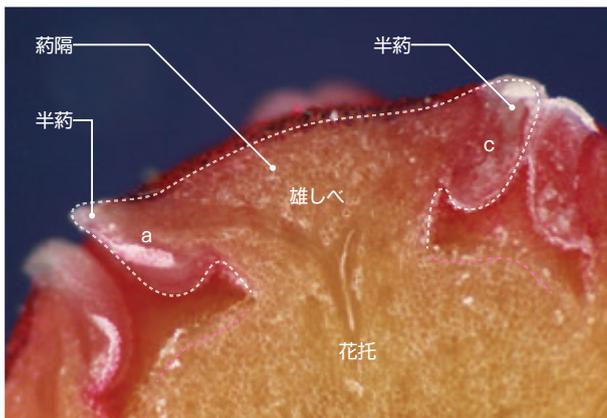


図7 図6の青破線での切断面。花托に花糸の短い雄しべが付いている

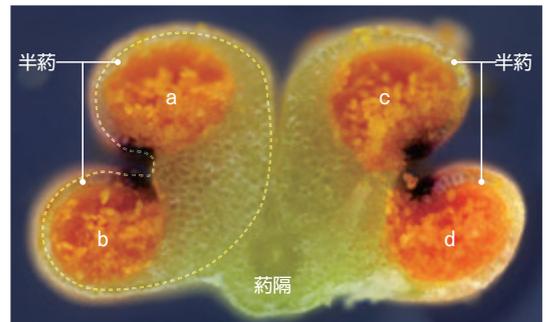


図9 図8の葯の横断面(2室からなる半葯2個と葯隔)

3 雌花

雌花の中央にある雌しべ群は、緑色なので雄花ほどには鮮やかではない。よく見れば白色の柱頭がちりばめられており、雌しべが球状に集まっている構造も雄花と類似のものである**図10**。**図11**で見るとように子房の先端に白色で不整形の柱頭がある。



図10 雌花(2)

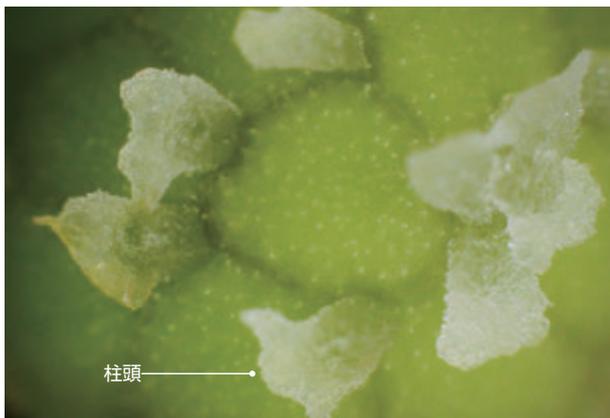


図11 雌花(3)



図12 雌花の断面

4 雌雄同株

田村(1989)には雌雄異株とあり、勝山(2000)には雌雄別株または同株と記載されている。雌雄同株の個体があるのかどうかを確認したいが、蔓になる木本なので、仮に雄花と雌花が見つかったとしても果たして同一の株にできたものか、並んで生えている別株の花であるのかが分かり難く、筆者が蔓をたどって確認したというだけでは説得力に欠けるので、分かりやすい写真が必要になる。**図13**の上の花は赤い雄しべが見えているので雄花であり、下の花は緑色の雌しべが見えているので雌花であるから雌雄同株であることが明らかである。

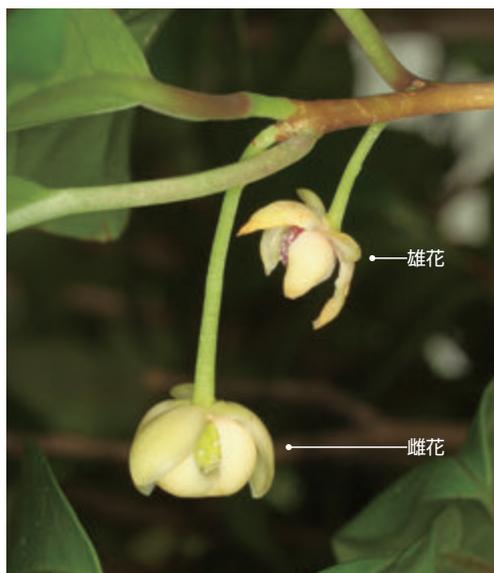


図13 雌雄同株